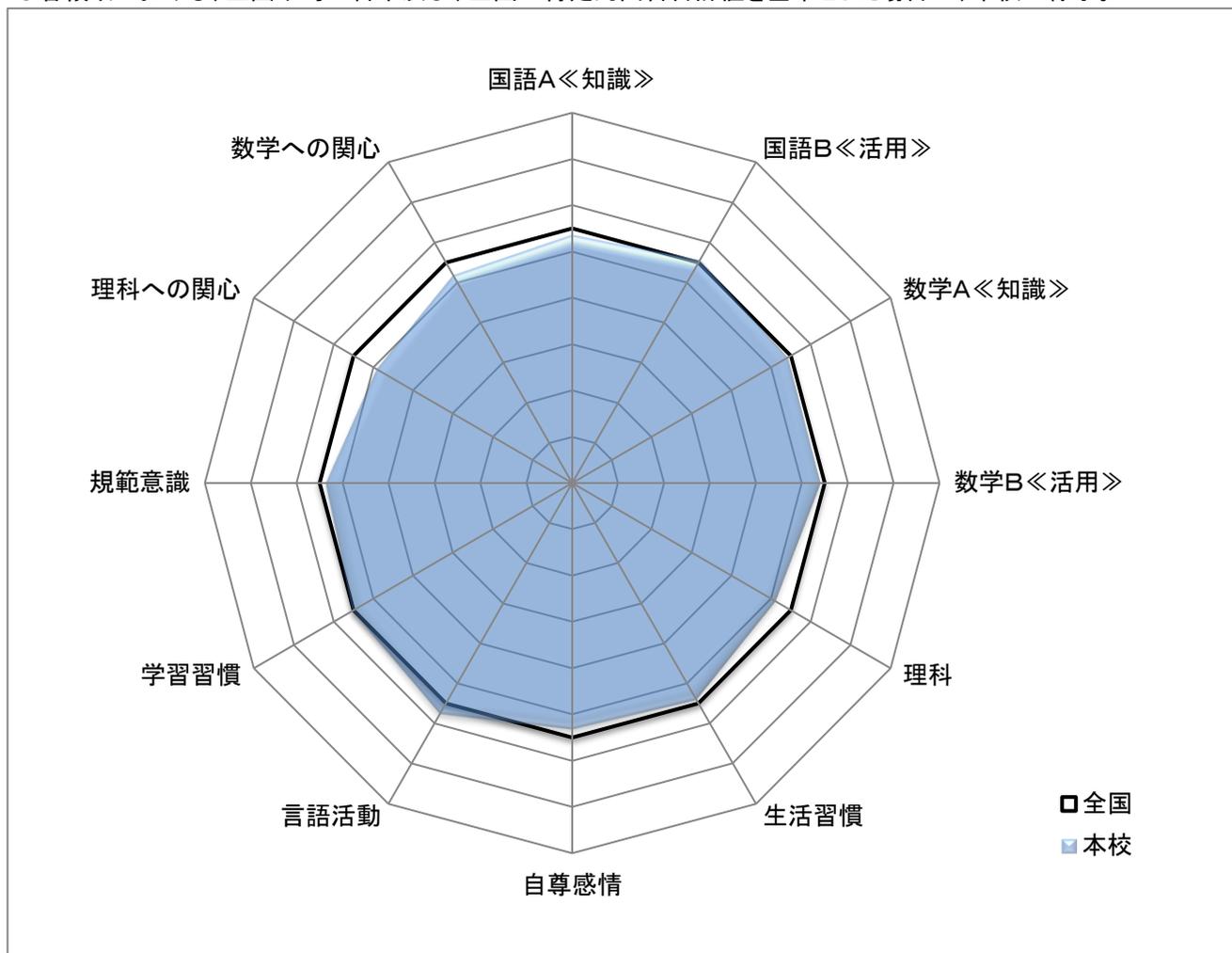


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語では主に「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと」に課題がある。数学では主に「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題がある。理科では主に「理科への関心が低いこと」、「〈変化すること(従属変数)〉以外に、〈変える条件(独立変数)〉に伴って〈変わってしまう条件〉について検討し、観察・実験を改善すること」に課題がある。

《授業改善のポイント》

国語：語感を磨き語彙を豊かにするために、それぞれの語句が話や文章の中でどのように使用されているか、自分が表現するときどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考えたり、学習してきた多様な語句を意識的に使用したりするように指導する。
 数学：説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する活動を充実させる。事象を確率を用いて解決する活動の後、問題解決の過程を振り返り、判断の理由や処理の仕方について検討、見直す場面を設定する。
 理科：日常生活や社会との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する学習活動を充実させる。自分の考えをもち自分や他者の考えを検討して改善する学習活動を充実させる。

《チャートの特徴》

国語Bでは全国平均正答率を上回ったが、数学A、数学Bでは全国平均正答率より1%ほど、国語A、理科ではそれぞれ2%、5%下回った。また数学、理科への関心が低い。言語活動について肯定的に回答をする生徒の割合は全国よりも多く、学習習慣は全国と同じであった。それに対して規範意識や自尊感情、生活習慣について肯定的に回答する生徒の割合は全国を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会や学校だよりなどを通して、家庭や地域で生徒に声を掛ける機会を増やすように働きかける。生徒の良いところを家庭や地域でも認める機会を増やし自尊感情を高め、同時に規範意識の向上を図る。また家庭においては生活習慣を身につけさせる声掛けもお願いしていく。